

# 新型コロナウイルス感染症禍における 大学生の生活課題と経済的課題の関連性 ～感染拡大初期の大学生へのWEBアンケート調査より～

岩満賢次\*

**要旨：**本稿の目的は、新型コロナウイルス感染症蔓延初期の2020年前半期における大学生等の生活課題と経済的状態との関連を明らかにすることにある。本調査は、2020年5月と7月とにWEBアンケート調査を実施した。5月調査は、2020年5月18日から5月31日に、9大学の大学生等を対象として行い、1,478件の回答を得た。7月調査では、2020年7月20日から8月9日に8大学の大学生等を対象として行い、1,179件の回答を得た。エクセル統計ソフトを用いて、授業の状況、人間関係（友人）、人間関係（家族）、身体的健康状態、精神的健康状態、これらの項目の経済的状態とのクロス集計により、Pearsonのカイ二乗検定を行った結果、5月調査の身体的健康状態を除く項目において、1%水準の有意差を確認することができた。このことから、授業の状況、身体的健康状態、精神的健康状態、人間関係（友人）、人間関係（家族）は、経済的状態との関係があり、経済的状態の改善の必要性が見られた。

**キーワード：**授業の状況、身体的健康、精神的健康、人間関係、経済的状態

## 1. はじめに

本稿の目的は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）蔓延初期の2020年前半期における大学生、大学院生、研究生等（以下、大学生等）の生活課題と経済的状態との関連を明らかにすることにある。

感染症の蔓延に伴い、「新しい生活様式」という用語が広まるように、生活が大きく変化してきている。子ども・若者にとってもその変化は大きく、北海道における道内全ての公立小中学校の2020年2月27日からの一斉休校要請（2020年2月26日発表）を皮切りに、2月27日の安倍晋三首相（当時）による全国すべての小・中・高校と特別支援学校に対する3月2日から春休みに入るまでの臨時休校要請が行われた。その後、2月27日の北海道の緊急事態宣言、4月7日の1都・1府・5県（東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡）への緊急事態宣言、4月16日の全国への緊急事態宣言などが発令されていく中で、日本中の学校の休校が続いていった。5月25日に政府による緊急事態宣言が解除され、

小・中・高校などは、緊急事態宣言の解除に伴い順次学校が再開されている一方で、大学は依然として通学による授業が再開されてこなかった。9月以降の学期においても、対面授業を全面的に再開する学校は少なく、インターネット等を通じたオンライン講義を中心とした講義運営が継続されている。対面授業を行う場合であっても、3密（密閉・密集・密接）対策が求められるなど、従来のような講義が実施しにくい状況が続いている。

その結果、大学生等の生活に大きな変化がおきていると考えられている。国においても、大学生等への財政的支援は少し導入されつつあるものの、学生の生活全般を踏まえた支援はまだ行き届いていないと言いがたい。2020年の5月と7月に、大学生等を対象とした調査をもとに、大学生等の生活課題について検討していきたい。

## 2. 調査の概要

本調査は、2020年5月と7月とに2回実施した。本稿では5月の調査を5月調査、7月の調査を7月

\* 岡山県立大学保健福祉学部

調査と呼ぶ。

5月調査の概要は次の通りである。

- ・ 期間：2020年5月18日から5月31日
- ・ 対象：9大学の大学生等
- ・ 方法：WEB調査（各大学の学内ネットワークから学生へ依頼して頂き、インターネット上のアンケートフォームによる入力方法）
- ・ 回答数：1,478件

回答者の属性：

- ・ 学年：1年生448名（30.3%）、2年生343名（23.2%）、3年生382名（25.8%）、4年生224名（15.2%）、修士課程（全学年）65名（4.4%）、博士課程（全学年）13名（0.9%）、その他（研究生、科目履修生、休学中など）1名（0.1%）、無回答2名（0.1%）
- ・ 性別：女性988名（66.8%）、男性461名（31.2%）、無回答29名（2.0%）
- ・ 生活状況：独り暮らし509名（34.4%）、同居（家族：常時同居）813名（55.0%）、同居（家族：一時的に帰省中）129名（8.7%）、4同居（家族以外、寮・シェアハウスなど）18名（1.2%）、その他3名（0.2%）、無回答6名（0.4%）

7月調査の概要は次の通りである。

- ・ 期間：2020年7月20日から8月9日
- ・ 対象：8大学の大学生等<sup>1)</sup>
- ・ 方法：WEB調査（5月調査に同じ）
- ・ 回答数：1,179件

回答者の属性

- ・ 学年：1年生441名（37.4%）、2年生295名（25.0%）、3年生218名（18.5%）、4年生167名（14.2%）、修士課程（全学年）41名（3.5%）、博士課程（全学年）12名（1.0%）、その他（科目履修生、研究生、休学中など）2名（0.2%）、無回答3名（0.3%）
- ・ 性別：女性803名（68.1%）、男性346名（29.3%）、無回答30名（2.5%）
- ・ 生活状況：独り暮らし419名（35.5%）、同居（家族：常時同居）661名（56.1%）、同居（家族：一時的に帰省中）69名（5.9%）、同居（家族以外、寮・シェアハウスなど）21名（1.8%）、無回答6名（0.5%）、その他3名（0.3%）
- ・ 大学への通学状況：通学をほぼ行っていない690名（58.5%）、週に1回以下通学している（たまに

行く程度である）156名（13.2%）、週に1回程度通学している114名（9.7%）、週に2～3回程度通学している164名（13.9%）、週に4回以上通学している52名（4.4%）、無回答3名（0.3%）

- ・ 通学の理由（複数回答）<sup>2)</sup>：授業342名（70.5%）、研究活動98名（20.2%）、正課外活動（部活動、サークル活動、資格取得講座など）80名（16.5%）、就職活動12名（2.5%）、学生支援（学生相談室など）8名（1.6%）、自習25名（5.2%）、友人、教員、職員など会うため15名（3.1%）、その他14名（2.9%）

なお、分析に当たっては、エクセル統計ソフトを用いた。

### 3. 倫理的配慮

本研究について、岡山県立大学倫理委員会にて事前に承認を得た（受付番号 20-13）。

### 4. 新型コロナウイルス感染症禍における大学生等の授業の状況

大学生等にとっての最も大きい変化は、やはり講義が対面式ではなくなった点であろう。文部科学省の行った「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」(令和2年6月5日)では、「6月1日(月)時点で授業を実施していると回答のあった大学等のうち、約6割においては、面接授業は実施されておらず、遠隔授業によって授業が実施されている。面接授業と遠隔授業が併用されている大学等は約3割、感染拡大の防止に配慮しつつ、学生を通学させて行う面接授業が実施されている大学等は約1割」としている<sup>3)</sup>。

このような状況の中、筆者による調査結果では、5月調査並びに7月調査において、授業の状況が「いつも通りである」と回答したのはそれぞれ31.3%、36.6%と約3分の1にとどまっており、半数以上の学生が、学習の変化を感じている。7月調査においては、「2.どちらかというといつよりは学習できていない」「3.いつもよりは学習できていない」と回答した人には、「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月、5月の合計で74.4%を占めており、大学が授業形態を模

1) 5月調査では9大学、7月調査では8大学を対象としている。7月調査の8大学は全て5月調査で行っている。また、大学内での配布対象（学科、学年等）は同等になるよう依頼している。

索していたところと重なっており、学習へ影響があったことが見られた<sup>4)</sup>。

## 5. 大学生等の経済問題と生活課題

上記のように、大学生等の授業の状況は大きく変化している。日本ではオンライン授業の整っていない大学が多かったことから、混乱状況は長引いているといえる。

他方で、感染症は、外出自粛の要請などにより、事業所の経営に大きく影響を与え、しいては労働者の雇用や収入にも大きな影響を与えていた。厚生労働省によると、感染症拡大に関連する解雇や雇い止めが、2020年11月6日時点で見込みを含めて70,242人であった（山陽新聞 2020年11月9日）。大学生等は、小・中・高校と大きく異なり、アルバイトなど経済的な側面も活発になる。また、保護者の世帯収入にも影響が出る場合もある。各大学は経済的支援なども打ち出しているものの、経済的状態に変化のある大学生等も顕在化してきている。

このような状況のなか、経済的状態については、筆者による調査結果では、5月調査並びに7月調査において「1. いつも通りである」と回答したのはそれぞれ50.7%、60.3%と約半数にとどまっている。「2. どちらかというといつもより状況は良くない」「3. いつもより状況は悪い」と回答した学生が、5月調査では合計で45.3%であり、7月調査では合計で34.5%となっている。

また、7月調査においては、「2. どちらかというといつもよりは状況は良くない」「3. いつもよりは状況は悪い」と回答した人に「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月、5月の合計で59.9%と約6割を占め、3月ごろから6月ごろにかけて経済的状態の変化が起こっていたと考えられる。一方で、全体的には、「1. いつも通りである」と回答した割合は、5月調査では50.7%、7月調査では60.3%と約10%上昇し、5月の緊急事態宣言下よりも7月の方に改善が見られていることから、アルバイトなどの再開が始まったものとみられる。

本調査では、その他にも、身体的健康状態、精神的健康状態、人間関係（友人）、人間関係（家族）について問うている。

身体的健康状態については、5月調査並びに7月調査において「1. いつも通りである」と回答したのはそれぞれ91.3%、90.4%と約9割が身体的健康状態の変化を感じていない一方で、約1割の大学生等が身体的健康状態の変化を感じている。7月調査において「2. どちらかというといつもよりは調子は良くない」「3. いつもよりは調子は悪い」と回答した人に「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月が12.6%と徐々に増加しはじめ、6月に34.0%とピークを迎えている。

精神的健康状態については、5月調査並びに7月調査において「1. いつも通りである」と回答したのはそれぞれ72.1%、69.0%と約7割が精神的健康状態の変化を感じていない一方で、約3割の大学生等が精神的健康状態の変化を感じている。7月調査において「2. どちらかというといつもよりは調子は良くない」「3. いつもよりは調子は悪い」と回答した人に「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月が19.5%と徐々に増加しはじめ、6月に26.2%とピークを迎えている。

人間関係（友人）については、5月調査並びに7月調査において「1. いつも通りである」と回答したのはそれぞれ71.4%、72.9%と約7割が人間関係（友人）の変化を感じていない一方で、約3割の大学生等が人間関係（友人）の変化を感じている。7月調査において「2. どちらかというといつもよりは状況は良くない」「3. いつもよりは状況は悪い」と回答した人に「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月、5月の合計で68.6%と約7割を占めている。

人間関係（家族）については、5月調査並びに7月調査において「1. いつも通りである」と回答したのはそれぞれ88.1%、91.7%と約9割が人間関係（家族）の変化を感じていない一方で、約1割の大学生等が人間関係（家族）の変化を感じている。7月調査において「2. どちらかというといつもよりは

2) 通学については、5月は通学を行っている大学がほぼなかったことから問うていない。

3) 文部科学省は、9月に再度行った「大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査」（令和2年9月15日）では、「全国の大学・高等専門学校（以下「大学等」という。）においては、ほぼ全ての大学等が対面による授業を実施予定。そのうち約8割が対面・遠隔授業の併用を予定。」としている。

4) 各設問において、「いつも」と比較する項目があるが、「ここでの「いつも」とは新型コロナウイルス感染症蔓延以前を指しています」と明記している。

状況は良くない」「3. いつもよりは状況は悪い」と回答した人には、「そのように感じ始めた時期を教えてください。」と質問した結果、4月、5月の合計で41.0%と約4割を占め、6月、7月で24.3%を占めている。

以上のデータから、4月から開始されるはずであった大学生生活の開始が大きくずれ込み、アルバイトなどの経済的活動も制限も始まったことから、4月ごろから経済的活動や学業への支障が出始めた学生がおり、それに伴い友人や家族の人間関係に変化が見られるようになった。その後、遅れて6月ごろから

身体的健康状態や精神的健康状態にも影響が出始めたことが見られた。

### 6. 経済的状态と生活課題

さらに、これらの授業の状況、身体的健康状態、精神的健康状態、人間関係（友人）、人間関係（家族）について、経済的状态との関係性を見るために、クロス集計を行った。ここでは、紙面の都合上、5月調査の結果から分析する。

授業の状況については、表1に示す通り、経済的状态「1.いつも通りである」と回答した人が、授

表1 経済的状态と授業の状況との関係

5月調査	授業の状況				合計
	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもよりは学習できていない	3.いつもよりは学習できていない	4.分からない	
1.いつも通りである	276 36.8%	281 37.5%	130 17.4%	62 8.3%	749 100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	107 27.0%	154 38.9%	104 26.3%	31 7.8%	396 100.0%
3.いつもより状況は悪い	69 25.2%	77 28.1%	106 38.7%	22 8.0%	274 100.0%
4.分からない	11 18.6%	16 27.1%	11 18.6%	21 35.6%	59 100.0%
合計	463 31.3%	528 35.7%	351 23.7%	136 9.2%	1,478 100.0%

  

7月調査	授業の状況				合計
	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもよりは学習できていない	3.いつもよりは学習できていない	4.分からない	
1.いつも通りである	291 40.9%	224 31.5%	137 19.3%	59 8.3%	711 100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	85 32.7%	92 35.4%	67 25.8%	16 6.2%	260 100.0%
3.いつもより状況は悪い	42 28.8%	40 27.4%	54 37.0%	10 6.8%	146 100.0%
4.分からない	14 22.6%	17 27.4%	17 27.4%	14 22.6%	62 100.0%
合計	432 36.6%	373 31.6%	275 23.3%	99 8.4%	1,179 100.0%

  

5月調査カイ二乗検定 手法	カイ二乗値	自由度	P 値	*:P<0.05 **:P<0.01
Pearson	110.3382		9	P < 0.001 **
7月調査カイ二乗検定 手法	カイ二乗値	自由度	P 値	*:P<0.05 **:P<0.01
Pearson	47.4709		9	P < 0.001 **

表2 経済的状态と身体的健康状態との関係

5月調査	身体的健康状態				合計
	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより調子は良くない	3.いつもより調子は悪い	4.分からない	
1.いつも通りである	705 94.1%	34 4.5%	8 1.1%	2 0.3%	749 100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	349 88.1%	40 10.1%	5 1.3%	2 0.5%	396 100.0%
3.いつもより状況は悪い	240 87.6%	26 9.5%	7 2.6%	1 0.4%	274 100.0%
4.分からない	56 94.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.1%	59 100.0%
合計	1350 91.3%	100 6.8%	20 1.4%	8 0.5%	1478 100.0%

  

7月調査	身体的健康状態				合計
	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより調子は良くない	3.いつもより調子は悪い	4.分からない	
1.いつも通りである	705 94.10%	34 4.50%	8 1.10%	2 0.30%	749 100.00%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	349 88.10%	40 10.10%	5 1.30%	2 0.50%	396 100.00%
3.いつもより状況は悪い	240 87.60%	26 9.50%	7 2.60%	1 0.40%	274 100.00%
4.分からない	56 94.90%	0 0.00%	0 0.00%	3 5.10%	59 100.00%
合計	1350 91.30%	100 6.80%	20 1.40%	8 0.50%	1478 100.00%

  

5月調査カイ二乗検定 手法	カイ二乗値	自由度	P 値	*:P<0.05 **:P<0.01
Pearson	48.4847		9	P < 0.001 **
7月調査カイ二乗検定 手法	カイ二乗値	自由度	P 値	*:P<0.05 **:P<0.01
Pearson	21.7036		9	0.0099 **

業の状況「1. いつも通りである」と回答した割合が36.8%であったのに対して、経済的状态「2. どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合には27.0%、「3. いつもより状況が悪い」と回答した場合には25.2%と段階を追うごとに減少傾向にある。また、経済的状态「2. どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合に授業の状況「2. どちらかというといつもよりは学習できていない」が38.9%、「3. いつもよりは学習できていない」が26.3%と経済的状态「1. いつも通りである」と回答した割合よりも高い。同様に、経済的状态

「3. いつもより状況が悪い」と回答した場合には、授業の状況「2. どちらかというといつもよりは学習できていない」が28.1%、「3. いつもよりは学習できていない」が38.7%と、経済的状态「3. いつもより状況が悪い」の授業の状況「3. いつもよりは学習できていない」の割合は、経済的状态「1. いつも通り」の授業の状況「3. いつもよりは学習できていない」の約2倍にも上る。

身体的健康状態については、表2に示す通り、経済的状态「1. いつも通りである」と回答した人が、身体的健康状態「1. いつも通りである」と回答

表3 経済的状态と精神的健康状態との関係

経済的状态	5月調査	精神的健康状態				合計
		1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより調子は良くない	3.いつもより調子は悪い	4.分からない	
1.いつも通りである	601	101	37	10	749	
	80.2%	13.5%	4.9%	1.3%	100.0%	
	2.どちらかというといつもより状況は良くない	268	90	34	4	396
		67.7%	22.7%	8.6%	1.0%	100.0%
		3.いつもより状況が悪い	154	82	34	4
56.2%			29.9%	12.4%	1.5%	100.0%
4.分からない			42	11	2	4
	71.2%		18.6%	3.4%	6.8%	100.0%
	合計		1065	284	107	22
		72.1%	19.2%	7.2%	1.5%	100.0%
		7月調査	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより調子は良くない	3.いつもより調子は悪い	4.分からない
534			112	53	12	711
75.1%			15.8%	7.5%	1.7%	100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	163		68	27	2	260
	62.7%		26.2%	10.4%	0.8%	100.0%
	3.いつもより状況が悪い	77	40	26	3	146
		52.7%	27.4%	17.8%	2.1%	100.0%
		4.分からない	39	8	10	5
62.9%			12.9%	16.1%	8.1%	100.0%
合計			813	228	116	22
	69.0%		19.3%	9.8%	1.9%	100.0%

5月調査カイ二乗検定  
手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
Pearson 78.9016 9 P<0.001 \*\*

5月調査カイ二乗検定  
手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
Pearson 59.1760 9 P<0.001 \*\*

表4 経済的状态と人間関係(友人)との関係

経済的状态	5月調査	人間関係(友人)の状況				合計
		1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより状況は良くない	3.いつもより状況は悪い	4.分からない	
1.いつも通りである	594	88	19	48	749	
	79.3%	11.7%	2.5%	6.4%	100.0%	
	2.どちらかというといつもより状況は良くない	256	83	21	36	396
		64.6%	21.0%	5.3%	9.1%	100.0%
		3.いつもより状況は悪い	171	62	20	21
62.4%			22.6%	7.3%	7.7%	100.0%
4.分からない			34	7	6	12
	57.6%		11.9%	10.2%	20.3%	100.0%
	合計		1055	240	66	117
		71.4%	16.2%	4.5%	7.9%	100.0%
		7月調査	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより状況は良くない	3.いつもより状況は悪い	4.分からない
532			103	28	48	711
74.8%			14.5%	3.9%	6.8%	100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	189		45	12	14	260
	72.7%		17.3%	4.6%	5.4%	100.0%
	3.いつもより状況は悪い	105	20	11	10	146
		71.9%	13.7%	7.5%	6.8%	100.0%
		4.分からない	33	6	5	18
53.2%			9.7%	8.1%	29.0%	100.0%
合計			859	174	56	90
	72.9%		14.8%	4.7%	7.6%	100.0%

5月調査カイ二乗検定  
手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
Pearson 66.5288 9 P<0.001 \*\*

5月調査カイ二乗検定  
手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
Pearson 50.6221 9 P<0.001 \*\*

した割合が94.1%であったのに対して、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合には88.1%、「3.いつもより状況が悪い」と回答した場合には87.6%と段階を追うごとに減少傾向にある。また、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合に身体的健康状態「2.どちらかというといつもより調子は良くない」が10.1%、「3.いつもより調子は悪い」が1.3%と経済的状态「1.いつも通りである」と回答した割合よりも高い。同様に、経済的状态「3.いつもより調子は悪い」と回答した場合には、身体的健康状態「2.どちらかというといつもより調子は良くない」が9.5%、「3.いつもより調子は悪い」が2.6%と、経済的状态「3.いつもより状況は悪い」の身体的健康状態「3.いつもより調子は悪い」の割合は、経済的状态「1.いつも通り」の身体的健康状態「3.いつもより調子は悪い」の約2倍にも上る。

精神的健康状態については、表3に示す通り、経済的状态「1.いつも通りである」と回答した人が、精神的健康状態「1.いつも通りである」と回答した割合が80.2%であったのに対して、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合には67.7%、「3.いつもより状況が悪い」と回答した場合には56.2%と段階を追うごとに減少傾向にある。また、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合に精神的健康状態「2.どちらかというといつもより調子は良くない」が22.7%、「3.いつもより調子は悪い」が8.6%と経済的状态「1.いつも通りである」と回答した割合よりも高い。同様に、経済的状态「3.いつもより状況は悪い」と回答した場合には、精神的健康状態「2.どちらかというといつもより調子は良くない」が29.9%、「3.いつもより調子は悪い」が12.4%と、経済的状态「3.いつもより状況は悪い」の精神的健康状態「3.いつもより調子は悪い」の割合は、経済的状态「1.いつも通り」の精神的健康状態「3.いつもより調子は悪い」の約3倍にも上る。

人間関係(友人)の状況については、表4に示す通り、経済的状态「1.いつも通りである」と回答した人が、人間関係(友人)の状況「1.いつも通りである」と回答した割合が79.3%であったのに対して、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合には64.6%、「3.いつもより状況が悪い」と回答した場合には62.4%と段階を追うごとに減少傾向にある。また、経済的状态「2.どちらかというといつもより状況は良くない」と回答した場合に人間関係(友人)の状況「2.どちらかというといつもより状況は良くない」が21.0%、「3.いつもより状況は悪い」が5.3%と経済的状态「1.いつも通りである」と回答した割合よりも高い。同様に、経済的状态「3.いつもより状況は悪い」と回答した場合には、人間関係(友人)の状況「2.どちらかというといつもより状況は良くない」が22.6%、「3.いつもより状況は悪い」が7.3%と、経済的状态「1.いつも通り」の人間関係(友人)の状況「3.いつもより状況は悪い」の約3倍に

表5 経済的状态と人間関係(家族)との関係

5月調査	人間関係(家族)の状況				合計
	1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより状況は良くない	3.いつもよりは状況は悪い	4.分からない	
1.いつも通りである	696	28	8	17	749
	92.9%	3.7%	1.1%	2.3%	100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	344	36	7	9	396
	86.9%	9.1%	1.8%	2.3%	100.0%
3.いつもより状況は悪い	213	41	14	6	274
	77.7%	15.0%	5.1%	2.2%	100.0%
4.分からない	49	2	2	6	59
	83.1%	3.4%	3.4%	10.2%	100.0%
合計	1302	107	31	38	1478
	88.1%	7.2%	2.1%	2.6%	100.0%
7月調査	人間関係(家族)の状況				合計
1.いつも通りである	2.どちらかというといつもより状況は良くない	3.いつもよりは状況は悪い	4.分からない		
1.いつも通りである	668	25	8	10	711
	94.0%	3.5%	1.1%	1.4%	100.0%
2.どちらかというといつもより状況は良くない	238	19	3	0	260
	91.5%	7.3%	1.2%	0.0%	100.0%
3.いつもより状況は悪い	123	10	10	3	146
	84.2%	6.8%	6.8%	2.1%	100.0%
4.分からない	52	2	1	7	62
	83.9%	3.2%	1.6%	11.3%	100.0%
合計	1081	56	22	20	1179
	91.7%	4.7%	1.9%	1.7%	100.0%

5月調査カイ二乗検定  
 手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
 Pearson 74.0194 9 P<0.001 \*\*  
 7月調査カイ二乗検定  
 手法 カイ二乗値 自由度 P 値 \*\*:P<0.05 \*\*:P<0.01  
 Pearson 69.9748 9 P<0.001 \*\*

も上る。

人間関係（家族）の状況については、表5に示す通り、経済的状態「1.いつも通りである」と回答した人が、人間関係（家族）の状況「1.いつも通りである」と回答した割合が92.9%であったのに対して、経済的状態「2.どちらかというといつより状況は良くない」と回答した場合には86.9%、「3.いつもより状況が悪い」と回答した場合には77.7%と段階を追うごとに減少傾向にある。また、経済的状態「2.どちらかというといつより状況は良くない」と回答した場合に人間関係（家族）の状況「2.どちらかというといつより状況は良くない」が9.1%、「3.いつもより状況が悪い」が1.8%と経済的状態「1.いつも通りである」と回答した割合よりも高い。同様に、経済的状態「3.いつもより状況は悪い」と回答した場合には、人間関係（家族）の状況「2.どちらかというといつより状況は良くない」が15.0%、「3.いつもより状況が悪い」が5.1%と、経済的状態「3.いつもより状況は悪い」の人間関係（家族）の状況「3.いつもより状況は悪い」の割合は、経済的状態「1.いつも通り」の人間関係（家族）の状況「3.いつもより状況は悪い」の約5倍にも上る。

以上、5月調査の結果をもとに生活課題と経済的課題の関連性を見たが、7月調査の結果においても同様の傾向が見られている。さらに、授業の状況、身体的健康状態、精神的健康状態、人間関係（家族）、人間関係（友人）、これらの項目の経済的状態とのクロス集計により、Pearsonのカイ二乗検定を行った結果、5月調査の身体的健康状態を除く項目において、1%水準において有意差を見ることができた。このことから、授業の状況、身体的健康状態、精神的健康状態、人間関係（友人）、人間関係（家族）について、経済的状態が悪くなるにつれ、それぞれの状況が悪化する傾向が強くなることが見られた。

今回の調査結果から、まず3月から4月にかけての経済的状態の変化が授業や人間関係に徐々に影響を与え、それらが長引いたことにより、心身の健康状態にも影響を与えた可能性があることが見られた。やはり経済的状態は、社会生活の根幹であると考えられる。

## 7. 終わりに

本研究では、新型コロナウイルス感染症蔓延初期時に顕在化した大学生等の生活課題について、大学生等へのWEBアンケート調査をもとに見てきた。一人の大学生による発言「政治に私たちが見えていますか」が、9月15日の立憲民主党と国民民主党の合流の際に、立憲民主党新代表より発信された（朝日新聞 2020年10月22日）。この言葉は、今回の調査結果を如実に表している。すなわち、大学生等という存在は、社会から見えにくいのである。今回の一連の新型コロナウイルス感染症の対応を見た場合、3月に突然の学校の一斉休校が発表された。その際に、安倍晋三首相（当時）は、「小、中、高等学校及び特別支援学校」と発表した。大学は入っていない。失業者が問題になると、主として雇用されている人の支援が打ち出される。もちろん大学生等もアルバイトなどの経済活動は行っているものの、それはあくまで学業の合間に行っていたという認識であり、それによって学生の生活が困窮することが想定されていたとは言い難い。大学生等の背後には家族がおり、「家計急変」という用語が象徴するように、世帯の家計が急変した場合（本人ではなく、親の経済的状態）が急変した場合には救済するというのがこれまでの学生への支援の基本であり、感染症蔓延下においてもそれが踏襲されている。子どもが不利益をこうむったら大変だという考え方、そして経済活動をしている人が所得を失うと大変だという考え方は、社会全体が共有しているように思われる。しかし、大学生等は、子どもでもなく、経済活動の主体でもなく、「経済活動をしない大人」と位置付けられており、感染症蔓延、経済活動低迷のなかで見えにくい存在として位置付けられている。

今回の調査結果で明らかになったように、大学生等は大学の講義がオンラインへ大幅に変更し、さらにはアルバイトなどの経済活動に大きな変化が生まれ、学習のみならず、心身の健康、家族や友人との人間関係にも変化が現れている。その基盤となるのは経済的課題であるといえる。

東京医科大学などのチームによる研究においても、「日本が新型コロナウイルスの流行第1波を経験した今年2月と4月に重いうつが疑われるほど心の健康状態が悪いと判定された人の割合は、年収が低いほど多い」と発表している（山陽新聞、2020年10月3日）。経済的状態は様々な生活リスクに影響

を与えていく可能性がある。第一義的に生活保障を念頭においた政策が必要であるといえる。

### 付記

調査票の配布にご協力頂きました各大学の先生方並びに大変な時期に回答頂きました学生の皆さんに心より御礼申し上げます。

### 文献

- ・ 朝日新聞（2020年10月22日）. 私たちが見えていますか、政治に届けた学生の声、26日国会開幕.
- ・ 文部科学省（2020）. 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（令和2年6月5日）.
- ・ 文部科学省（2020）. 大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査（令和2年9月15日）.
- ・ 山陽新聞（2020年11月9日）. コロナ解雇、雇い止め7万人に 増加勢いやや鈍化、厚労省.
- ・ 山陽新聞（2020年10月3日）. メンタルの不調、年収により差：コロナ第1波で調査.

**The relationship between social and economic issues concerning university students throughout the COVID-19 pandemic  
-Using online surveys aimed at students attending universities in the early stage of the pandemic-**

KENJI IWAMITSU

*\*Department of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University*

**Abstract :** This paper aimed to identify the relationships between social and economic issues experienced by students who were attending universities during the early stages of the COVID-19 pandemic. To study this, two separate surveys were conducted in both March and July of 2020 using online questionnaires. The survey conducted in March was administered to 1,478 students from nine universities, between the 18th and 31st of the month. The survey conducted in July was administered to 1,179 students from eight universities, between the 20th of July and the 9th of August. I subsequently analyzed the relationships between students' learning achievements, physical health, mental health, and human relationships (both familial relationships and friendships). My aim was to determine whether these elements were correlated to students' economic situations amidst the COVID-19 pandemic. These relationships were examined using cross tables and Pearson's correlation coefficient. As a result, I ascertained that learning achievements, physical health, mental health, and human relationships (both familial relationships and friendships) were all related to students' economic situations. Given these findings, I suggest enhanced economic support for students at universities to resolve these social issues that have arisen during this pandemic and may arise again in other crisis situations.

**Keywords :** Learning Achievements, Physical Health, Mental Health, Human Relationships, Economic Situation